

令和2年度公共事業評価監視委員会 再評価地区

県営かんがい排水事業

さがせいふこういき
佐賀西部高域地区

事業採択後、10年間経過

佐賀西部高域地区 位置図



県営かんがい排水事業
佐賀西部高域地区

事業目的

本地区では、土地利用型農業（米、麦、大豆）や施設園芸（いちご、きゅうり、なす等）が展開されている。

農業用水は中小河川やため池等に依存していることから、小規模な干ばつ時でも農業用水が不足し、営農に支障を来している。

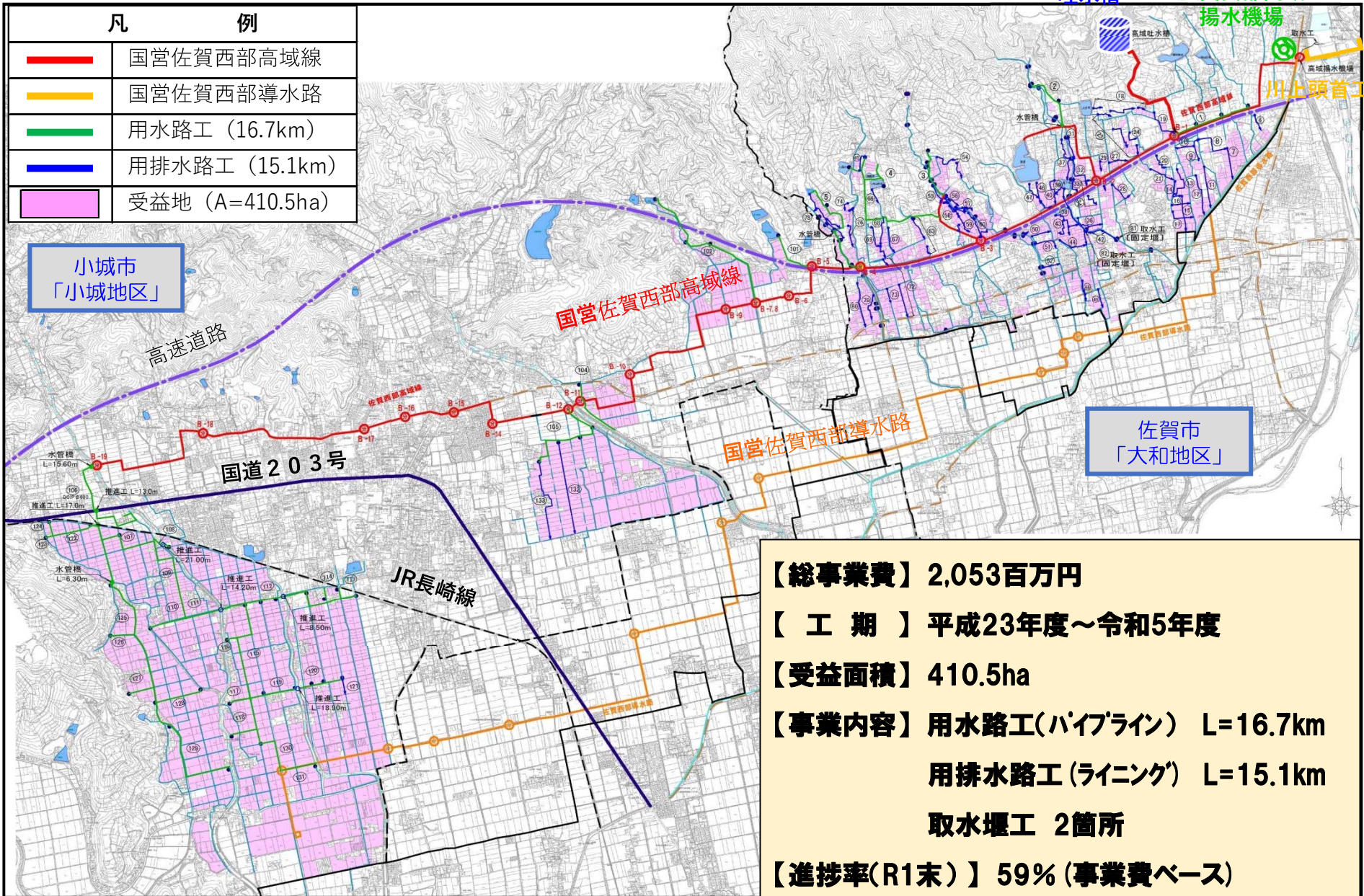
このため、用排水施設の整備により農業用水の安定供給を行い、担い手農家への農地集積による生産性の向上を図るとともに、農業経営の安定を目的とする。

佐賀西部高域地区の概要

嘉瀬川ダム 

佐賀西部高域
吐水槽

佐賀西部高域
揚水機場



小城市
「小城地区」

佐賀市
「大和地区」

高速道路

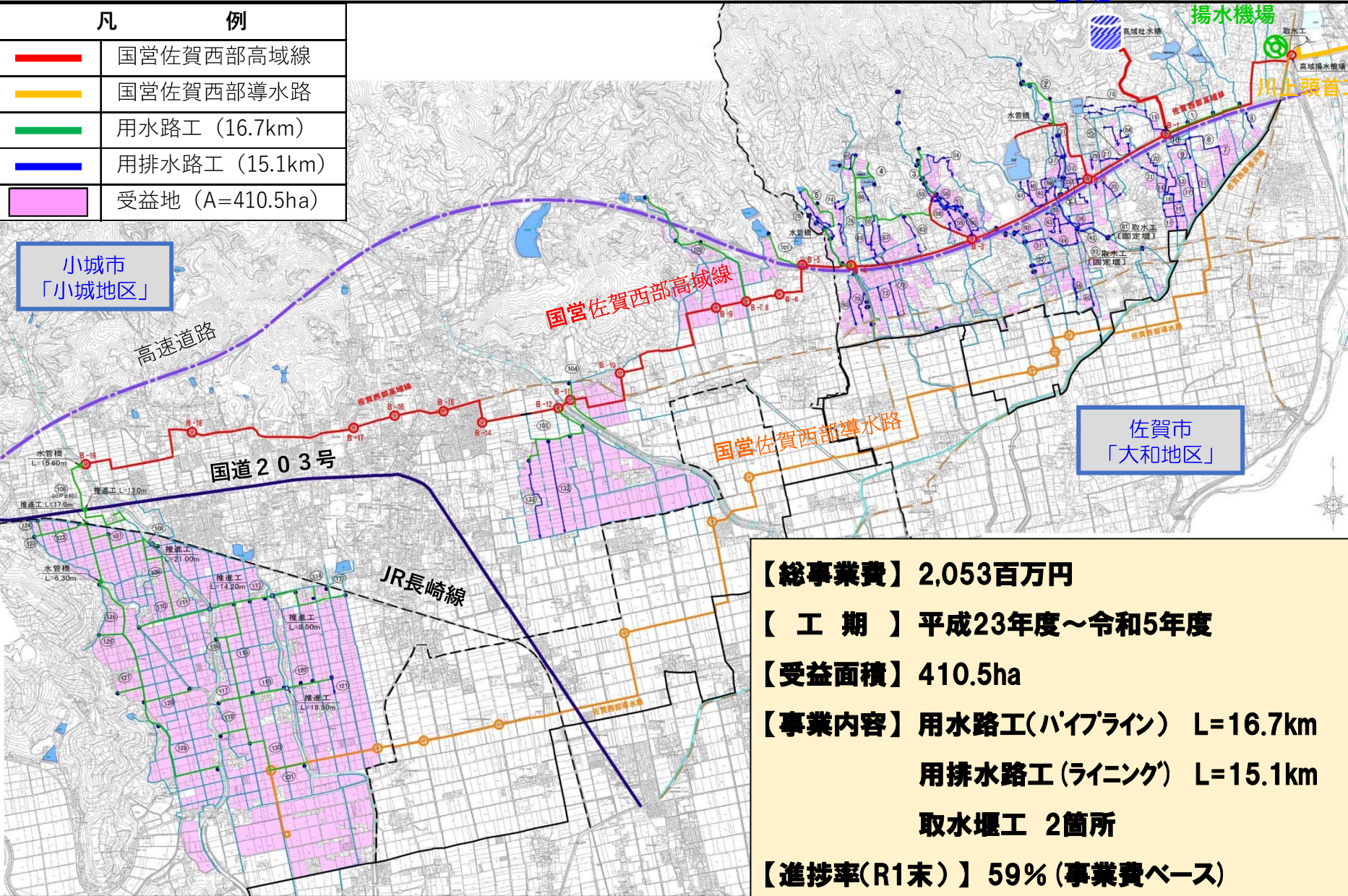
国道203号

JR長崎線

国営佐賀西部高域線

国営佐賀西部導水路

川上頭首工



関連国営土地改良事業の概要

本地区では不足する農業用水を嘉瀬川ダムに依存しており、国営筑後川下流土地改良事業で整備された施設を介して配水される計画である。

吐水槽



嘉瀬川ダム



ダム高	約97m
堤体積	約1,000千m ³
総貯水量	71,000千m ³
有効貯水量	68,000千m ³



通水量	1.27m ³ /s
延長	12,500m

通水量	8.84m ³ /s
延長	12,900m

佐賀西部高域揚水機場

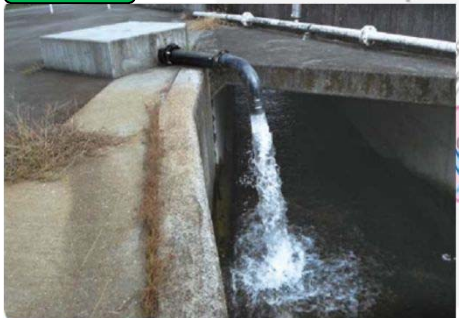
川上頭首工



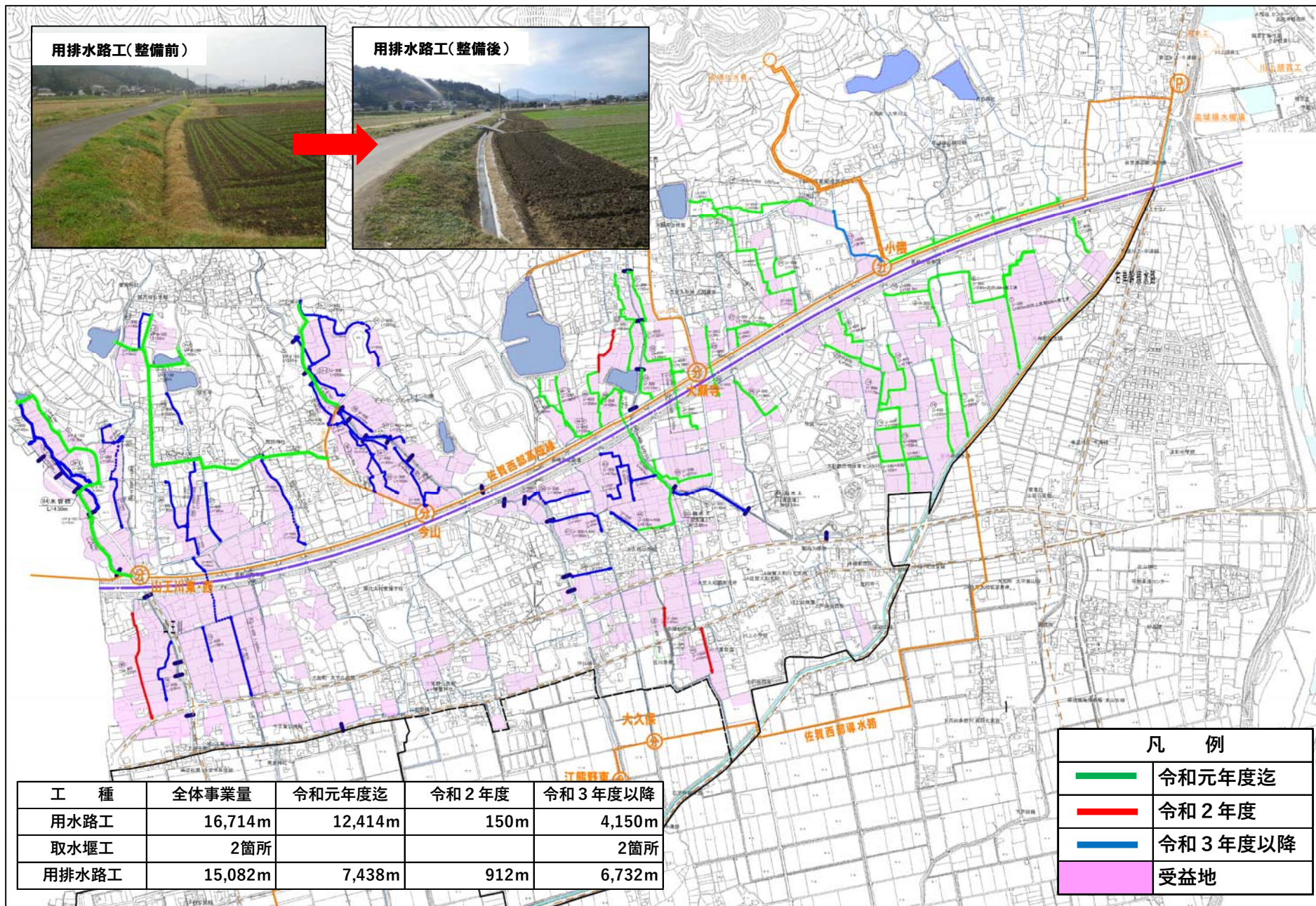
佐賀高域揚水機場



分水工

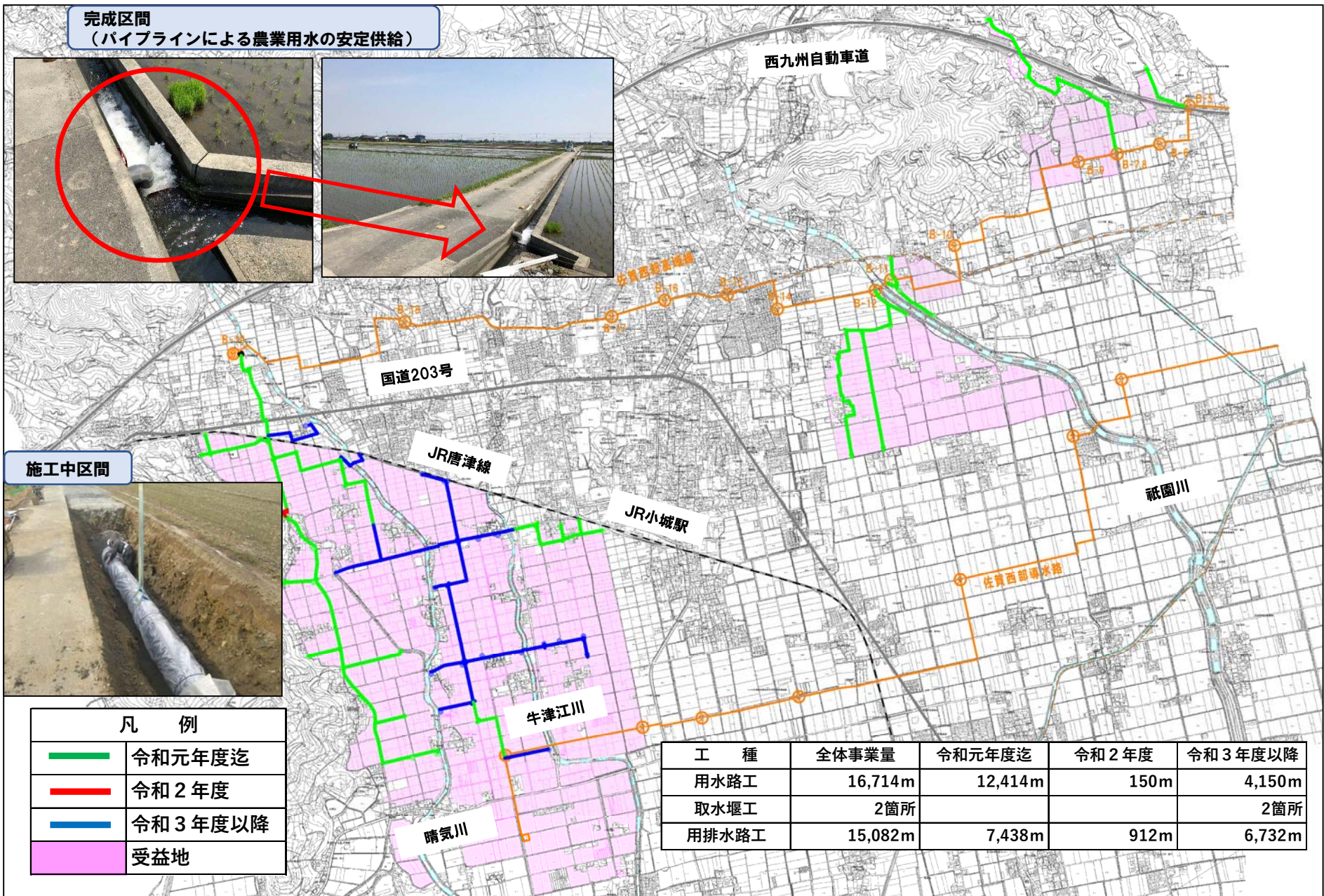
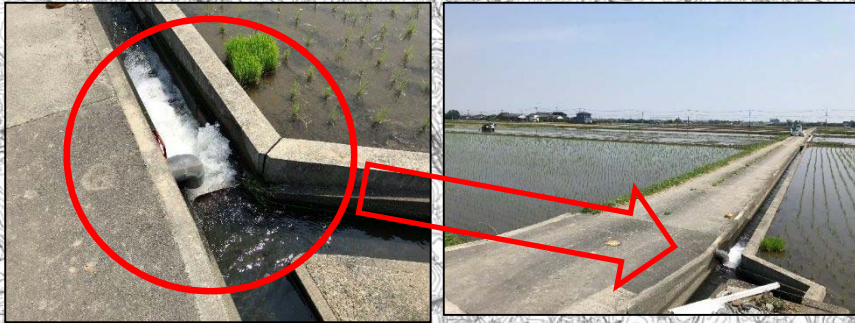


佐賀西部高域地区の実施状況（佐賀）



佐賀西部高域地区の実施状況（小城）

完成区間
(パイプラインによる農業用水の安定供給)



施工中区間



凡 例	
—	令和元年度迄
—	令和2年度
—	令和3年度以降
 	受益地

工 種	全体事業量	令和元年度迄	令和2年度	令和3年度以降
用水路工	16,714m	12,414m	150m	4,150m
取水堰工	2箇所			2箇所
用排水路工	15,082m	7,438m	912m	6,732m

社会経済情勢等の変化

- 受益面積は、農地転用により減少
【事業採択時】 420.3ha → 【現在】 410.5ha
- 受益地内における農家数は、減少傾向
【事業採択時】 821戸 → 【現在】 737戸

費用対効果の要因の変化

要因の大きな変化なし。

○総便益（B）：事業を行うことによって発現する効果額
（内訳）

○作物生産効果	2, 276百万円
○品質向上効果	357百万円
○営農経費節減効果	12, 899百万円
○維持管理費節減効果	△388百万円
○国産農産物安定供給効果	311百万円

○総費用（C）：当該事業及び関連事業の建設事業費＋
事業期間及び40年間に要する維持管理費

費用便益比

$$\frac{\text{総便益（B）15, 455百万円}}{\text{総費用（C）12, 096百万円}} = 1.27$$

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- ・パイプライン工事における現場発生材やクラッシュラン等の再生材を活用。
- ・用排水路の整備は、コンクリート二次製品を活用し作業を省力化する。

(代替案の検討)

特になし

対応方針

当初から事業の必要性は変わっておらず、国営事業と一体となって事業効果を発現するものであることから事業を継続したい。